



ロシアNIS経済速報

一般社団法人 ロシアNIS貿易会 2014年（平成26年）3月15日号 No. 1622

目次

■ ロシアの石油ガス最新事情と日ロ協力	M.クルチヒン 1
■ トピックス	7
道銀ウラジオストク事務所開設へ／7	
ダイードリンコがロシアに本格進出／7	
JAL、S7とのコードシェアを拡大／7	

ロシアの石油ガス最新事情と日ロ協力

ルスエナジー アナリスト

M.クルチヒン

はじめに

去る2月10日（月）および12日（水）に東京と新潟において当会主催「日露石油ガス・セミナー」が開催された（新潟においては環日本海経済研究所との共同開催）。同セミナーでは「ルスエナジー」のアナリストであるミハイル・クルチヒン氏を招き、ロシアの石油ガスの最新事情、石油ガス分野に関する極東開発の現状、日ロ協力の可能性等についてお話しいただいた。ソ連時代は通信社の中東各国の特派員を務め、ソ連解体後は石油ガス分野の雑誌の編集などに携わり、常に最新の情報に精通している同氏の報告は、日本の経済界・ビジネス界の関心を喚起するものであった。また、新潟においては極東におけるガス開発への関心が高く、いずれも多くの方にご来場いただいた。今号ではクルチヒン氏の講演概要を報告する。

ロシアの石油ガス分野：現状と展望

現状 ロシアの石油ガス分野の現状について3つのポイントから話したい。第1は石油ガスの埋蔵量および資源の品質、第2は今後のロシアの石油ガス製品の輸出市場、第3は石油ガス分野、エネルギー分野の国内におけるマネジメントである。

現在、ロシアの国庫収入のほぼ半分を石油ガス分野のそれが占めている。プーチンが大統領に就任した2000年の石油ガス分野からの収入は10%に満たなかったが、現在では50%